

地域福祉に関するアンケート調査結果

播磨町
令和5(2023)年7月18日(火)

I 調査実施の概要

1 調査の目的

「地域福祉計画」策定の基礎資料とすることを目的として実施

※「地域福祉計画」とは…

誰もが住み慣れた地域で、健康で明るく生きがいのある生活ができるよう、住民や地域の事業所、行政等が連携して取り組む活動の方向性を示したもの。

2 調査方法及び調査対象

- (1) 調査方法 郵送調査法（郵送配布－郵送・インターネット回収）
- (2) 調査対象 播磨町内にお住まいの18歳以上の方から無作為抽出 1,000人
- (3) 調査期間 令和4(2022)年10月27日（木）～令和4(2022)年11月14日（月）
- (4) 有効回収 467サンプル（有効回収率：46.7%）
（内訳）郵送回答：388件、インターネット回答：79件

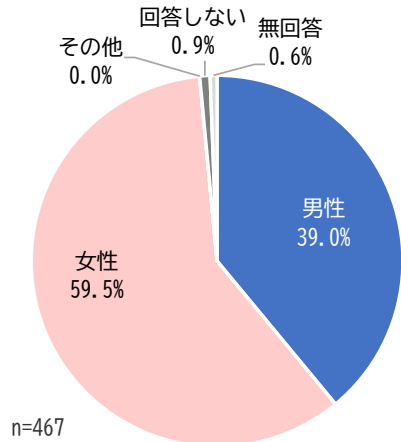
3 報告書の見方

- 「n」（number of case）は各質問の回答者数で、回答は「n」を基数とした百分率（%）で示してある。
- 百分率は小数点以下第2位を四捨五入して算出しているため、百分率の合計が100.0%にならないことがある。
- 1つの質問に2つ以上答えられる“複数回答可能”の場合は、回答比率の合計が100.0%を超える場合がある。
- グラフ等の記載にあたっては、調査票の選択肢の文言を一部省略している場合がある。

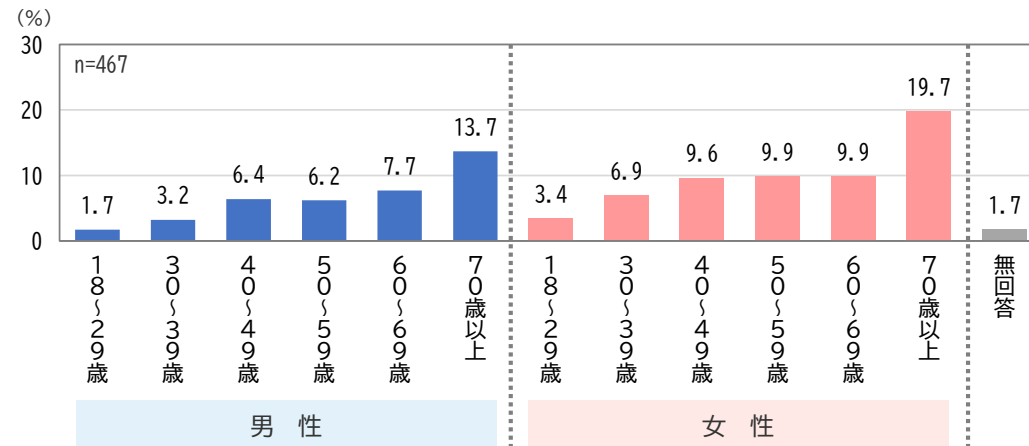
II 調査結果

1 回答者の属性

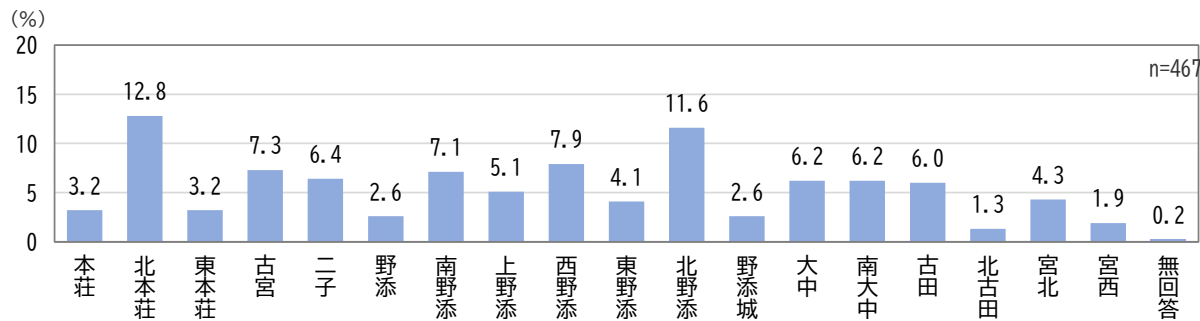
(1) 性別



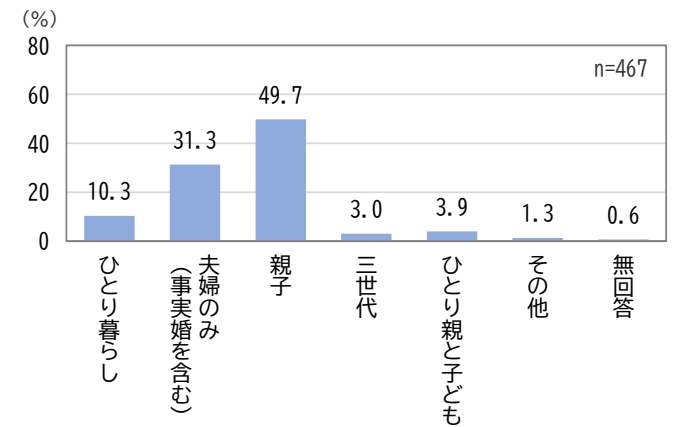
(2) 年齢



(3) 居住地



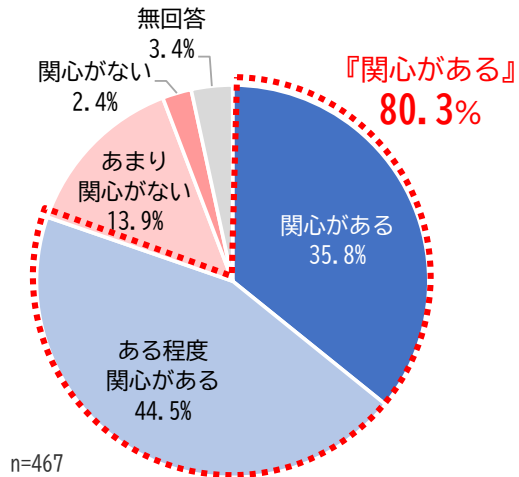
(4) 家族構成



Ⅱ 調査結果

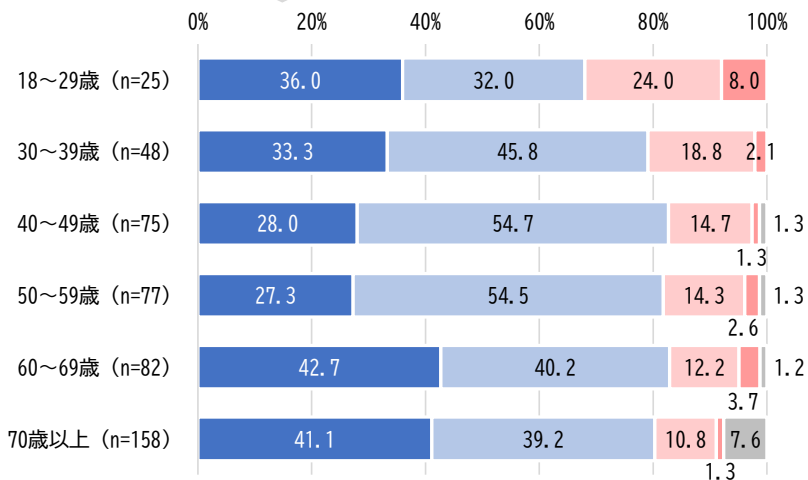
2 「福祉」への関心

(1) 「福祉」への関心

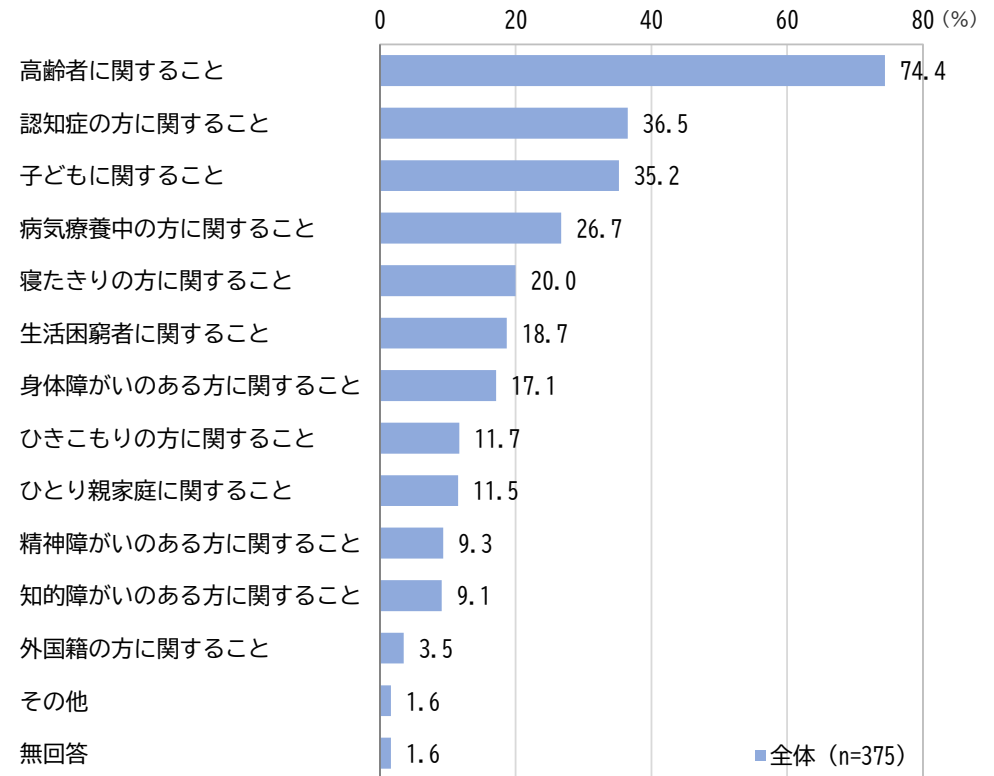


『関心がある』
80.3%

年齢別にみると…



(2) 関心のある分野 ※ (1) で『関心がある』と回答した人のみ

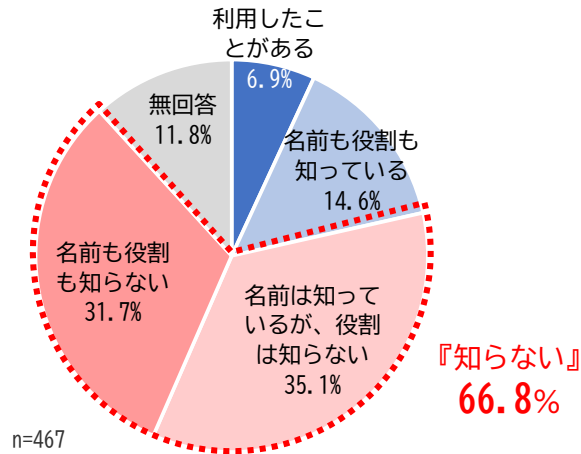


○「福祉」に関心のある人は約8割と高いものの、年齢別にみると、18~29歳では7割未満、30~39歳では8割未満と年齢が低いほど関心が少ない。
○関心のある分野では「高齢者に関すること」が最も高く、次いで「認知症の方に関すること」、「子どもに関すること」の順となっており、生活困窮や障がいのある方、ひきこもり、ひとり親家庭への関心は低い。

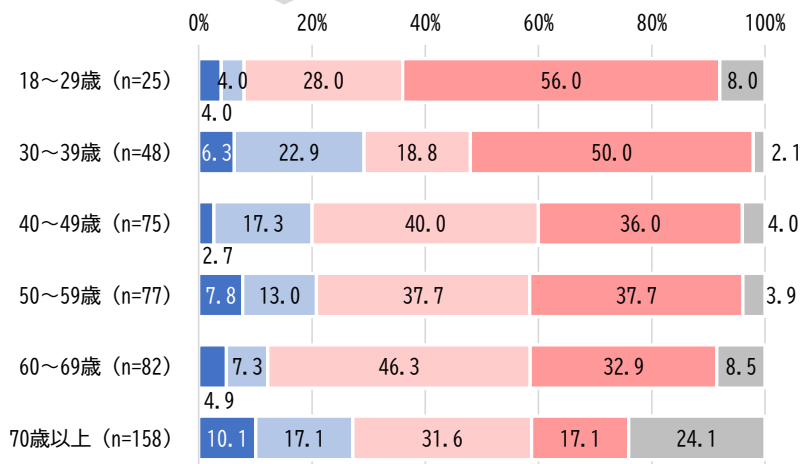
II 調査結果

3 困りごとに対する相談

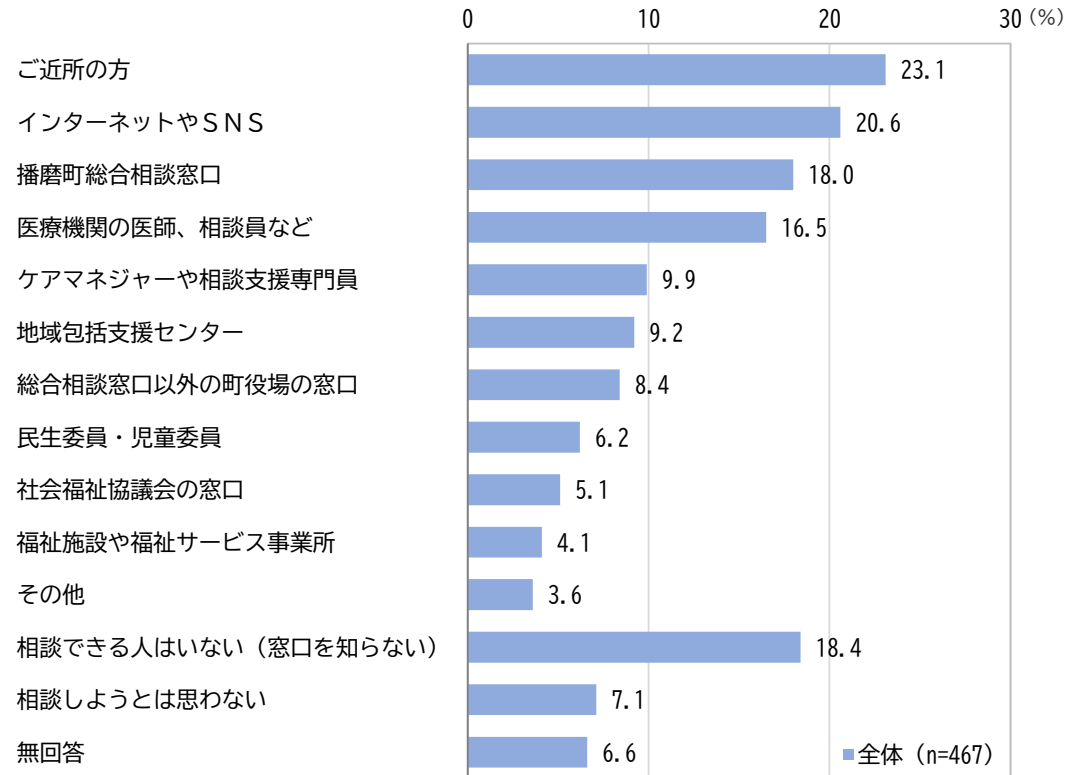
(1) 播磨町総合相談窓口の認知度



年齢別にみると…



(2) 困りごとがあった時に、家族や友人以外に相談できる人・窓口

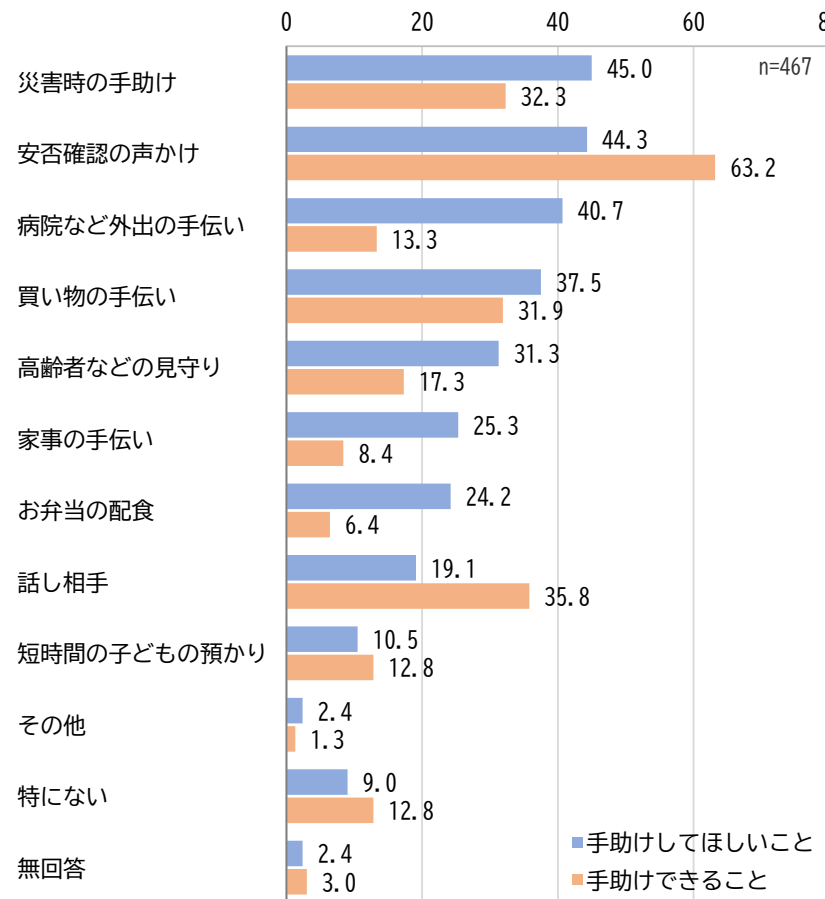


○播磨町総合相談窓口については、『知らない』が7割近くを占めている。
 ○年代別にみると、30～39歳・70歳以上で認知度が高いのに対し、18～39歳では「名前も役割も知らない」が半数を占めている。
 ○困りごとの相談先では、「ご近所の方」や「インターネットやSNS」の回答が2割を占めているものの、「相談できる人はいない(窓口を知らない)」が2割近くを占めている。

Ⅱ 調査結果

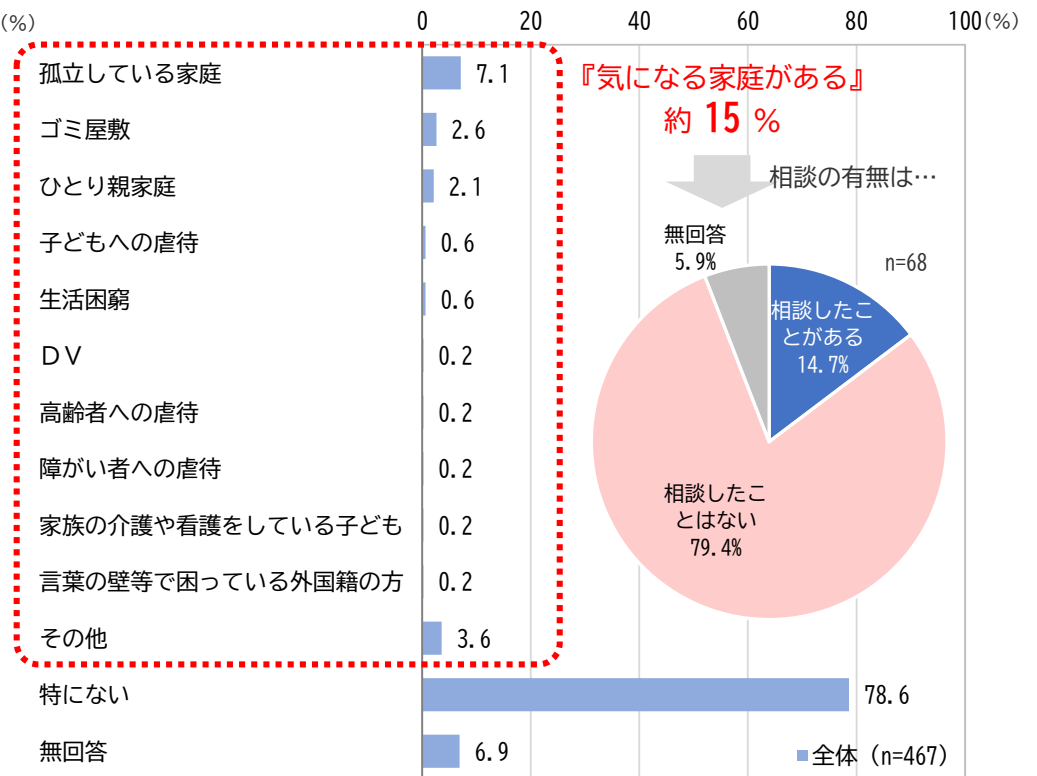
4 地域での助け合い

(1) 地域で手助けしてほしいこと・手助けできること



○「災害時の手助け」や「安否確認の声かけ」、「買い物の手伝い」などでは、手助けしてほしいこと・手助けできることで、ともに高い割合となっている。

(2) 隣近所にお住まいの家庭で気になる家庭

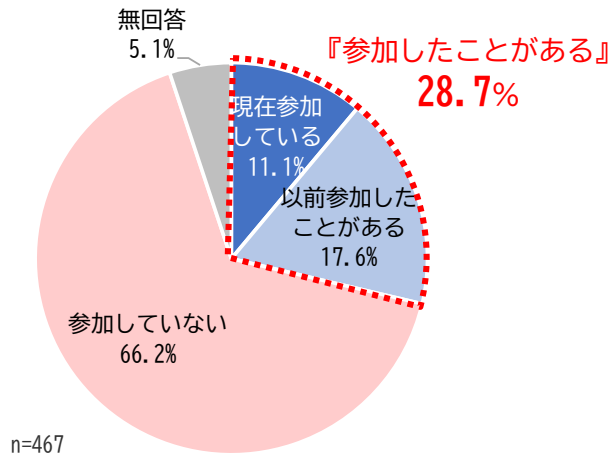


○隣近所で気になる家庭は「特にない」が8割近くを占めているものの、何かしらで気になる家庭がある人が約15%となっている。
○その中で、その家庭についての相談については、「相談したことはない」が約8割を占め、「相談したことがある」は1割程度となっている。

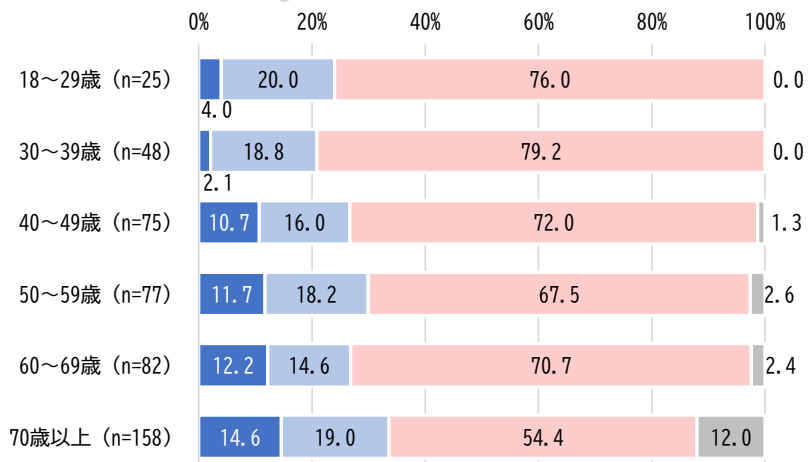
II 調査結果

5 地域の支え合いにつながる活動

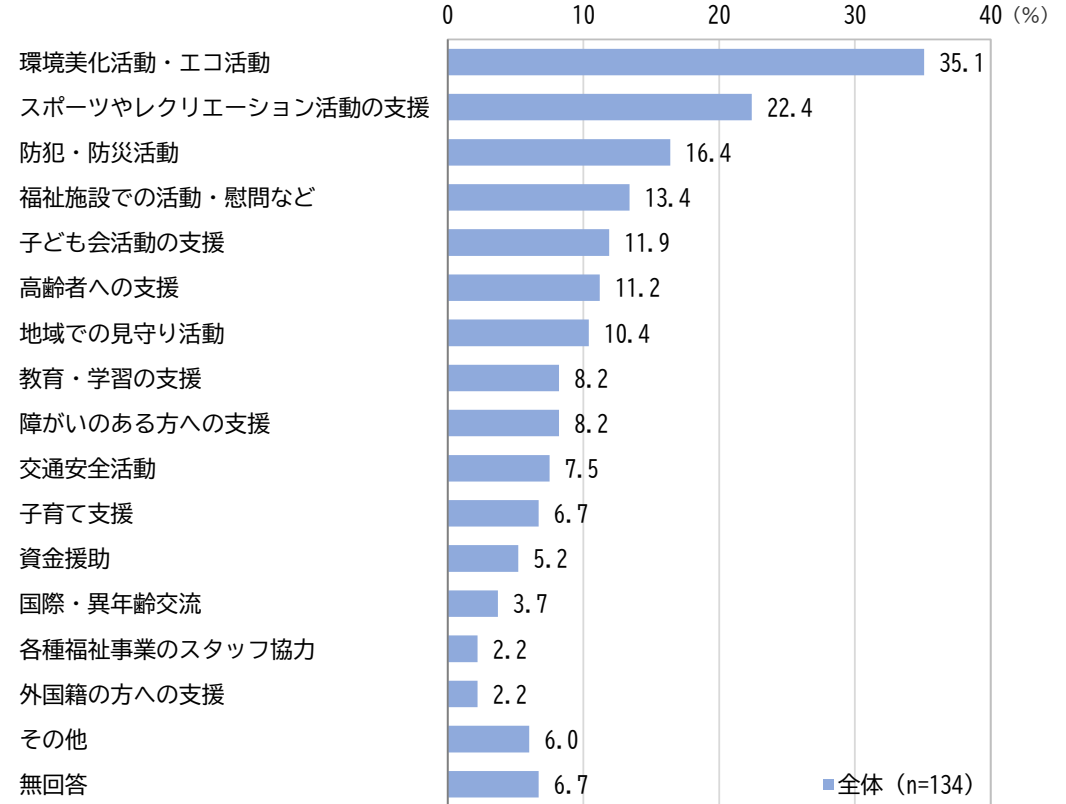
(1) 現在の参加状況



年齢別にみると…



(2) 参加している内容 ※(1)で『参加したことがある』と回答した人のみ



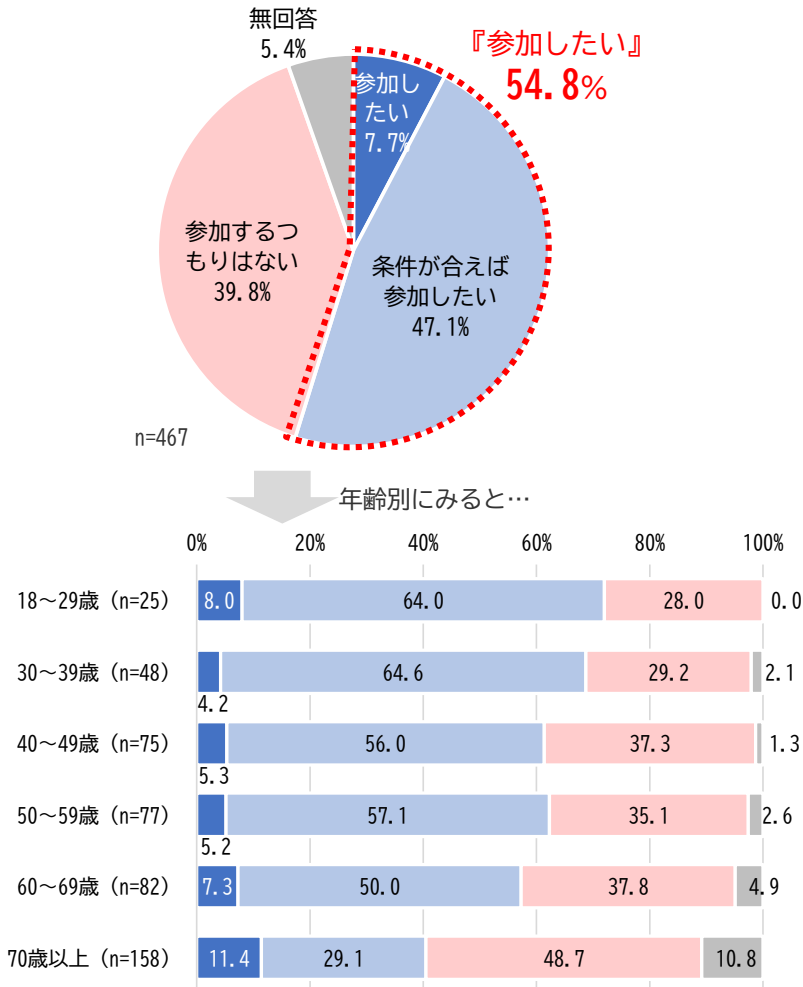
○地域の支え合いにつながる活動については、「参加していない」が66.2%と高く、『参加したことがある』は約3割となっている。参加状況を年代別にみると、18~39歳では現在参加している人が5%未満となっている。

○参加している人の参加内容では「環境美化活動・エコ活動」や「スポーツやレクリエーション活動の支援」などが高くなっている。

II 調査結果

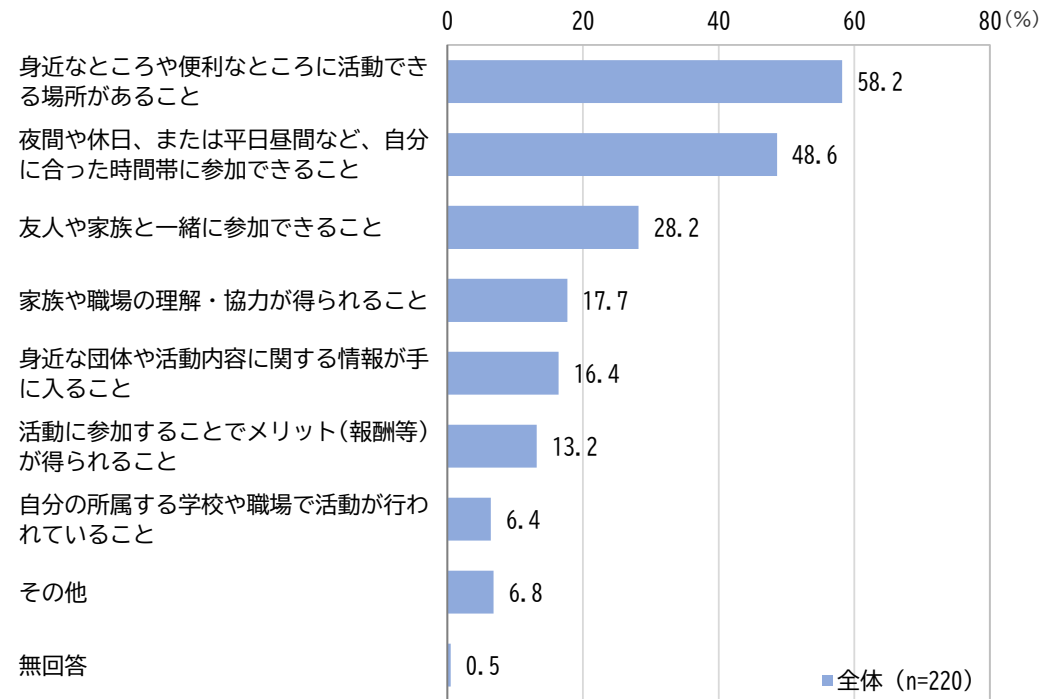
5 地域の支え合いにつながる活動

(3) 今後の参加意向



(4) 活動に参加するために整えるべき環境や条件

※ (3) で「条件が合えば参加したい」と回答した人のみ

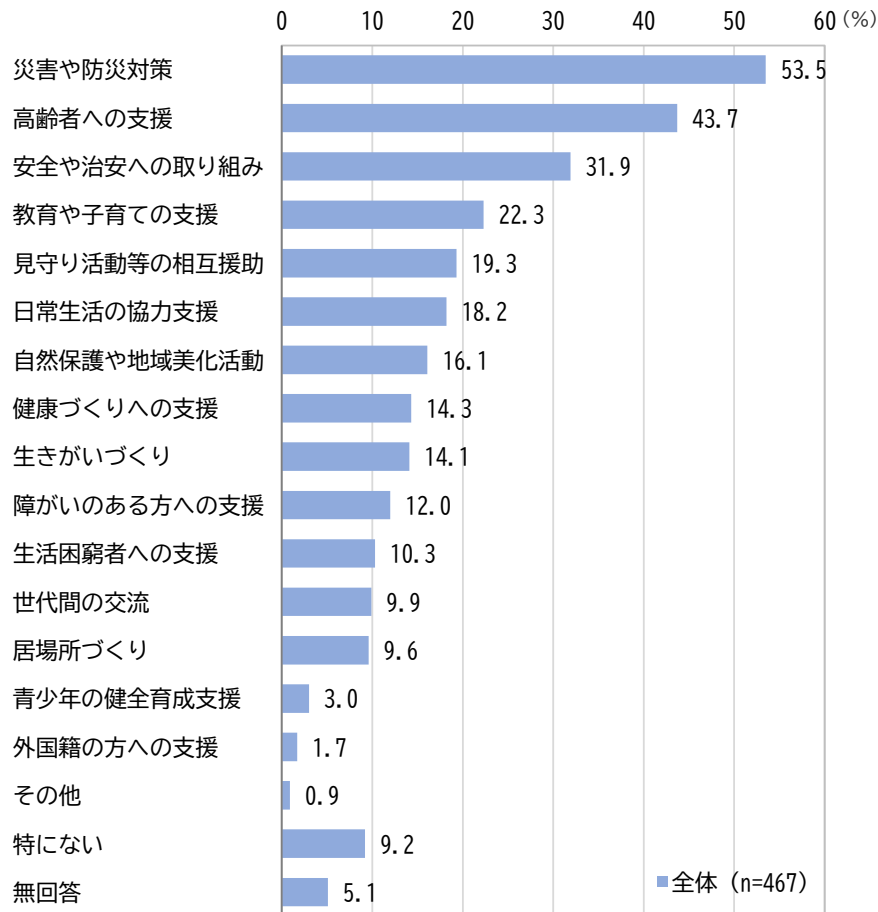


- 地域の支え合いにつながる活動の今後の参加意向では、『参加したい』が半数以上を占めている。特に、参加している人が少ない18~39歳では「条件が合えば参加したい」がともに6割を超えて高くなっている。
- 活動に参加するために整えるべき環境や条件では「身近なところや便利なところに活動できる場所があること」や「夜間や休日、または平日昼間など、自分に合った時間帯に参加できること」など、場所や時間の面で気軽に参加できることが望まれている。

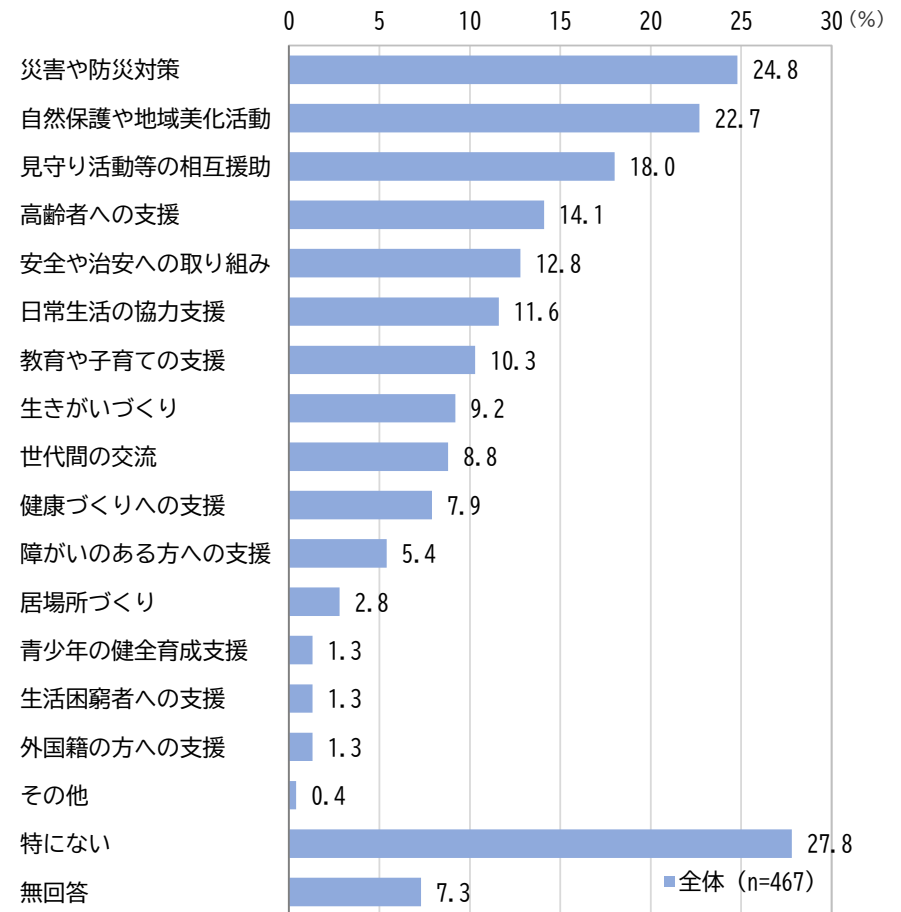
Ⅱ 調査結果

6 「地域」に対する評価

(1) 地域自体で必要だと思う役割や活動



(2) 地域での活動について参加や手助けができること



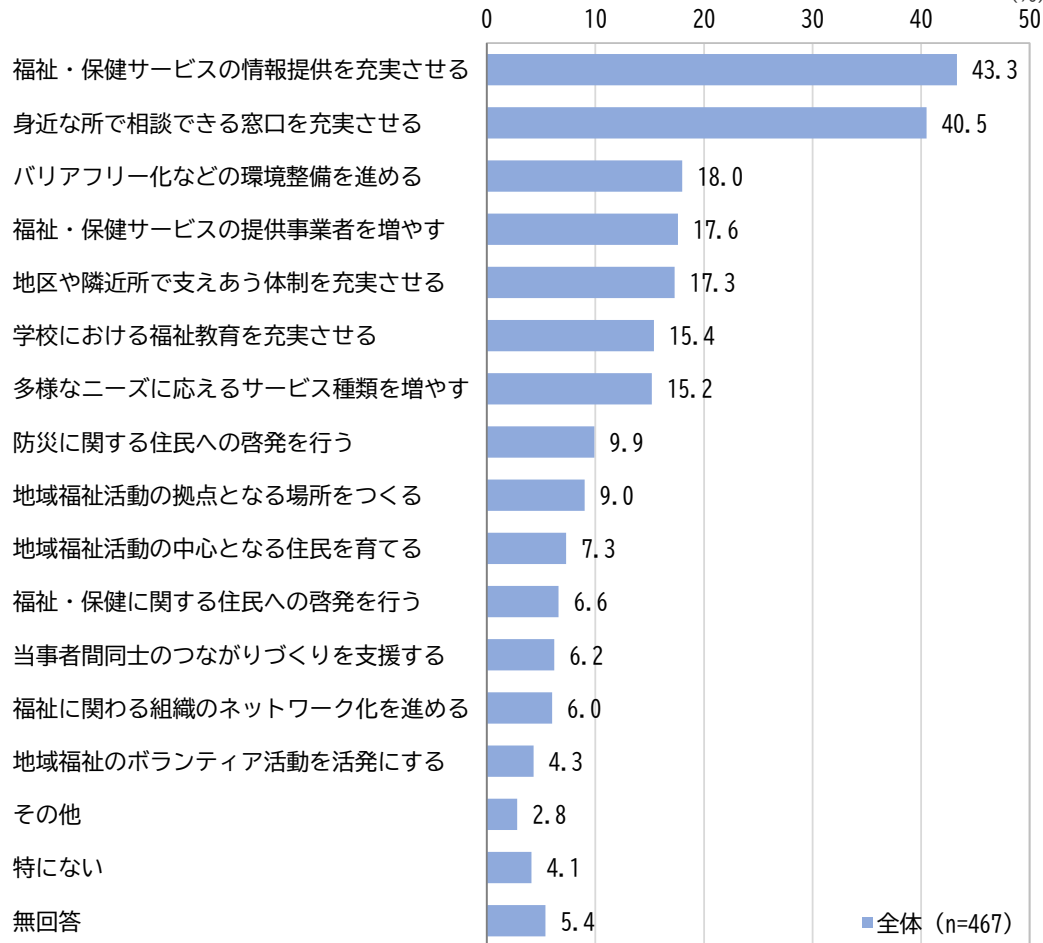
○地域で必要だと思う役割や活動では「災害や防災対策」が最も高く、次いで「高齢者への支援」となっている。また、地域での活動について参加や手助けができることにおいても同様に「災害や防災対策」が最も高くなっている。

○災害・防災対策において、地域のつながりの必要性を感じている人が多く、参加意向も高いことが分かる結果となっている。

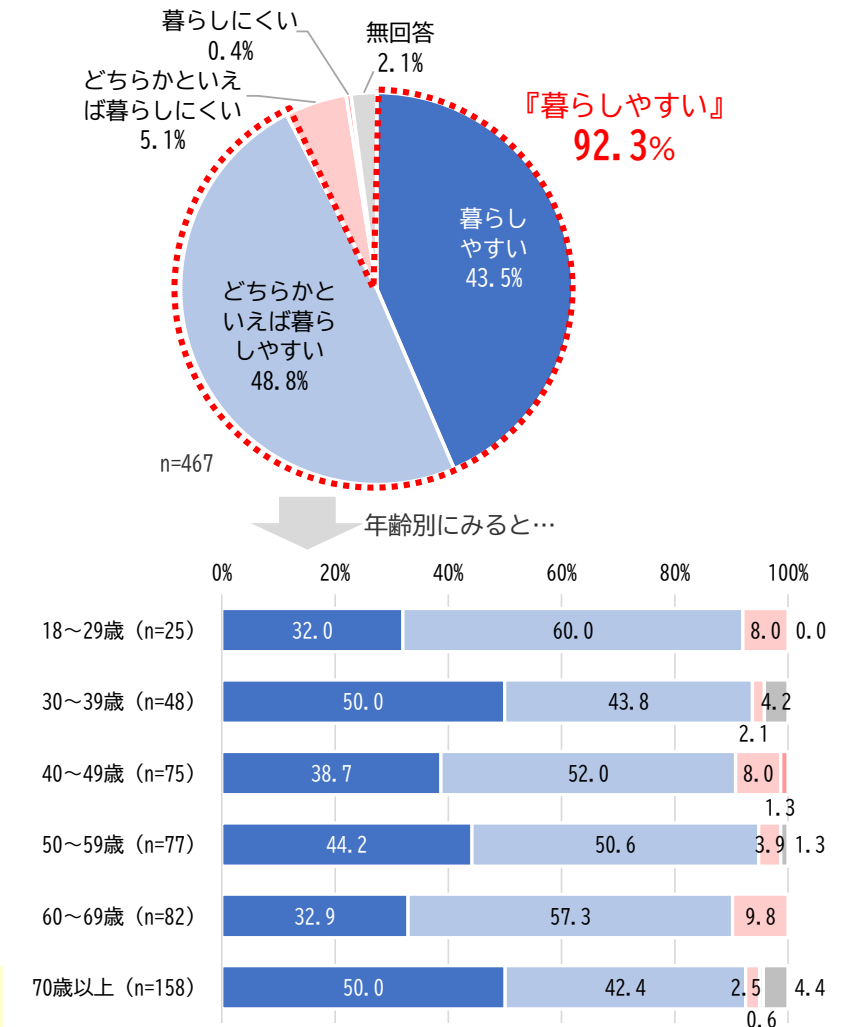
Ⅱ 調査結果

7 福祉のまちづくりに向けて取り組むべきこと

(1) 福祉のまちづくりのために優先して取り組むべきこと



(2) 播磨町の暮らしやすさの評価



○福祉のまちづくりに向けては、情報提供や相談窓口の充実が望まれる。
 ○町の暮らしやすさの評価では、『暮らしやすい』が9割以上を占める。